秋の陣 たたかいの跡 試大会のきろく

甲村(市)・武川(村)がV
町の部は石和が一
◆オ41回山梨県体育祭◆

九月二十五日 第一会場(町の部)緑が丘県営弓道場、第二会場(市村の部)甲府南高弓道場で開催。市町村三部制で熱戦が繰りひろげられた。成績は次の通り。(市)男7女5(村)男3女2(町)男22女9。計49ケム第9。

	市の部	町の部	村の部
男	1甲府 27中 2大月 20中 3富士高19中 4高根 13中 5中道 12中 6鰍沢 11中	1石和 18中 2若草 16中 3増穂 15中 4成川 11中 5境川 9中 6明野 7中	
女	1甲府 8中 2富士西 8中 3山梨 7中 4石和 8中 5勝沼 7中 6上野原 5中	1市川 11中 2三珠 11中 3柳初 9中 4八田 8中	1大和 6中 2八田 3中

個人	男	女
	1畑沢萬子中 2赤池美幸中 3塩瀬久仁子中 4春屋遠子中 5窪田真子中 6石和さち子中 7増穂久子中	1標沢次子中 2深沢芳子中 3阿久沢公子中 4窪田仁美中 5滝沢恵中 6柏茶葉子中 7飯島美治子中

ここも終了は午後大時。記録集計が終ったら九時。これでは困る。来年から日程再検討が必要。

三三国体(はザンネン)
‖全種別敗退‖

昨年の「全種別予選通過」の夢よもう度ーと張り切って横浜道場に乗りこんだが…。結果は思いもかけない「全滅」という成績。

種別	近的	遠的	総合
少男	20中 三位	16中 七位	五位
少女	16中 一位	9中 八位	四位
成女一	10中 七位	6中 八位	八位
成女二	13中 六位	17中 一位	三位

昨年とさほど力の差はなかったはずなのに…昨秋から国東大会「百分知おず」で一位確実を数も味方も信じていた男女とも予選通過。女子は「標準校」(標準校)で予選通過し、決勝でも大中(同中技形)でみごとに三位入賞。山梨では初の快挙。アッパレ。尚、女子の秋山選手もわずか一点差で決勝進出を逃しました。惜しかった(斜線は予選敗退)。

全日本選手権大会で
標選手(生)三位

九月二十二日伊勢神宮。男子二条佐野両選手は予選通過成らず。女子は「標準校」(標準校)手が皆中で予選通過し、決勝でも大中(同中技形)でみごとに三位入賞。山梨では初の快挙。アッパレ。尚、女子の秋山選手もわずか一点差で決勝進出を逃しました。惜しかった(斜線は予選敗退)。

☆関東選抜大会

地連	有段者	計	一般	計
栃木	25	16	41	36
茨城	17	19	36	40
埼玉	19	17	36	24
千葉	18	23	41	40
東京	13	17	30	24
神奈川	15	18	33	31
静岡	19	16	35	31
山梨	16	24	40	36

本県選手十人体健斗して総合四位(斜線の部)位にくいこんだ。また個人の部では佐野辰巳選手が第五位に入賞した。関東の出場は総勢百名。

九月四日大宮弓道場で開催

連載 山弓連の歴史を創ってきた人々(紹介)3
宮田嘉寿氏(79オ)

ご先祖は富士登中から武将として十五代目の嘉寿氏が再び弓をとり始めたという。四歳の時に弓を引き始め、以来四十五年。故士六段。

この頃は腰の故障の為、ご自身では引かないでもっぱら指導専門の弓となった。周囲の人の話では、痛んでいるのは足首で上半身は健康そのもの。特にロから頭にかけては、いささかの心配もなく、当分しもかかろうがピンピンと教えるという。

かつて当県をそれた自県選抜を全国大会の準優に育てた情熱と指導力は今も全くかわっていない。目黒高校時代の教え子は全弓連事務局の武田広氏、木村秀一氏がいる。だから、全弓連では、おのおのに頼みやすく。

昭和31年(東京オリンピックの年)に高体連(別手員長をつとめた後、40年に山梨県に帰り、会社役員をするかたわら、山梨弓連の副会長を二期つとめて、現在は県連顧問。

竹下氏は、目黒高校合宿弓道場富桐園を甲村市科恩に建設し指導にあたっている。

ゲイエルの字を今も用いる、実は筆者もびっくり。趣はツツツ。とても七十八歳とは見えない元気で目標。

おめでとう 錬士二名・教三名合格
―甲府中央審査―

九月十八日に行われた中央審査で、県から四人の合格者が生れた。錬士―小屋幸夫、宮下英雄 大段―古屋達男、窪田克行

今後の精進と発展を祈ります。

尚、臨時審査の皆さん、ご苦労様でした。会が無事終了できたのは皆さんのお力添えのおかげです。特に受審と運営とのかけもちの方は審査で十分実力が発揮できなかったのではないかと申しわけなく思っています。すみませんでした。

審査にかかわる話の夕べ
先頃、東京の古本屋で

戦前に刊行された弓道の本を見つけました。その中に当時の審査の学科試験問題がありました。なかなか難しい問題です。一部を紹介するので、試してみて下さい。

●君子の争いは何処か(六位は三段)
●矢の部の名称を記せ(六位は二段)
●弓手両掌射の起因如何(六位は三段)
●押手勝手甲衝力について(昭五・三段)
●射型をみて病名は(昭四・三段)
●災の文の意義を説明しかつ防腐を起べよ(六位は二段)
●在の文を解釈せよ(六位は三段)
玉不磨不成器
内省不疚何如人吉
●在の文を和訳せよ(昭三・三段)
善用兵者 其振如風 其徐如林
侵掠如火 不動如山 動如雷霆
●左の歌の意味を説け(六位は二段)
朝ぬれ身にはもみぢ柏風の
日には見えぬ音は含きき

ザンネン。何点ぐらい取れるでしょうか。

重要
●11月1~3日の中央(地訳)審査会場が変更されます。(会室ご病気の自粛措置で明治神宮が使えない)
●11月4日(教士)・5日(錬士)・6日(六段)・新宿スポーツセンター
●7・8段は予定通り。

局から

※に忙しくて各支部取材のヒマがありませんでした。それで今号は支部だよりは休みです。ザンネン。

●夏から秋にかけて公私ともにバタバタ。こんなことのないように、各支部から自発的にご連絡下さい。そうしてもらうと助かります。

●昇段審査、秋の昇段審査での健斗を期待しています。お元気で。

山弓連の歴史 2

昭和20年1月、敗戦から続いてきた大日本武徳会が解散した。後継弓道各団体結集をはかって、昭和22年4月に山梨県弓道連盟が発足した。(「弓技協史」より)

初代 吉田英三郎(甲府)
二代 金井徳重(勝沼)
三代 井桁健吉(八代)
四代 石津文郎(新田)
五代(副)金井徳重(勝沼)
六代 望月良作(中川)
七代 千野保平(甲村)
八代(副)望月光寿良(中川)
九代 渋江良雄(勝沼)
十代 中沢利正(下部)